



呼吸器センターのご紹介

副院長 佐藤 敦夫

明治の半ばより 1950 年までは結核死が国民の死因の一位でした。1960 年頃までは、肺病といえば肺結核のことだった時代が続いておりました。今の日本呼吸器学会が、日本結核病学会から派生したのは 1960 年のことです。結核を診療していた医師が他の呼吸器疾患も診察するようになったという歴史的背景があり、結核療養所や結核研究所は日本の呼吸器疾患医療のベースとなりました。

当院も以前は結核療養所でした。最盛期には 600 名を超える結核入院患者さんがおられましたが、現在結核患者さんは僅か 10 名程度となり、結核以外の呼吸器疾患の患者さんが 80 名程入院されています。伝統のおかげか、当院の呼吸器センターには、呼吸器内科専門医が 6 名、呼吸器外科専門医 1 名常勤しており、当院は京都府南部では最も専門医が多い施設となっております。京都府南部では唯一結核病床を有する病院ですが、肺がんはもとより、肺炎、COPD、間質性肺炎、気管支喘息、非結核性抗酸菌症、気管支拡張症など、多彩な呼吸器疾患に対し専門的な治療を行っています。

呼吸器の疾患には慢性的な経過をたどる疾患が多く、一生付き合っていかななくてはならない病気が数多くあります。DPC 制度の元では、繰り返しの入院や、長期の入院が困難です。幸か不幸か DPC 制度から外れている当院では、ある程度時間をかけたリハビリテーションや、調子を崩した際の再入院をし易いため、診断初期から長年お付き合いしている患者さんが沢山おられます。

残念ながら、原疾患に関わらず、呼吸器の病気が一定以上に進行すると、慢性呼吸不全に至ります。そうすると原疾患に対する特異的な療法以上に、酸素吸入や人工呼吸器を用いた呼吸管理をしっかり行うことが重要となります。また、その際に栄養管理や、リハビリテーションを併用し、介護との連携を進めることで予後の改善や、QOL の改善が図れることが明らかになってきました。当院では医師、看護師、栄養士、リハビリスタッフ、地域連携室が多職種連携し、相談しながら慢性呼吸不全の患者さんのケアに当たっています。

近年では、がん以外の慢性進行性の良性疾患における終末期においても、緩和ケアが必要であることが言われています。がんに対する緩和ケアはすでに確立した領域ですが、がんに対する手法が、必ずしも良性疾患にも当てはまるとは限りません。

患者さんにどのように自分の病気を理解いただき、ご自分の納得のゆく形で将来の治療選択をしてもらうにはどうしたら良いだろうか？患者さんは終末期どのように過ごすことを望んでいるのだろうか？自分の考えと、ご家族に意見の食い違いをどのように調整できるだろうか？終末期の呼吸困難などの症状緩和に対する最も有効な方法は何だろうか？様々な問題がまだ解決されずに残されています。呼吸器センターでは、これらの様々な問いに対して、患者さんのご協力のもと、臨床研究も行っております。

当院の特色を生かしながら、地域に必要とされる活動的な呼吸器センターであり続けるために努力を重ねてまいります。

医師紹介

小児科医師 西川 絹子

2021年4月より南京都病院小児科に赴任しました、西川絹子と申します。京都大学医学部を卒業後、京都大学医学部附属病院で初期研修を行い、その後天津赤十字病院、三菱京都病院で小児科の後期研修を行いました。3月まで京都大学医学部附属病院小児科に医員として勤めております。現在卒後7年目で、サブスペシャリティとしては小児神経領域を中心に学んでいる最中です。今後は京都大学の大学院に進学し、しばらく研究に携わる予定です。



現在は主に病棟で、長期入所の重症心身障がい児（者）の方や短期入所の患者さんの診療に関わっております。個人的には、これまであまり触れられなかった分野であり、新鮮な気持ちで学ばせていただいております。長く携わっておられる先生方やコメディカルの方々、家で見ておられるご家族の方々の知識や技術に感嘆する日々です。

まだまだ若輩者ですが、患者さんと患者ご家族のお役に立てるよう精一杯努めさせていただきます。短い期間ではございますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。



呼吸器科 専攻医 中山 絵美

初めまして、医師6年目の中山絵美と申します。一人前の呼吸器内科医を目指して研修するために、坪井先生にご高配を賜り、この度南京都病院で勤務させていただくことになりました。大学は滋賀医科大学を卒業しました。枚方から往復80kmを6年間通い、通学距離に疲れてしまい、初期研修病院は、自宅から最寄りのJCHO星ヶ丘医療センターでさせていただきました。そこで御指導をいただいた呼吸器内科の先生方が、患者さんに非常に優しく医療をされている姿に感銘を受け、そのまま呼吸器内科に所属し後期研修の2年6カ月を過ごしました。後期研修の最後の6カ月は枚方公済病院循環器・総合内科でご指導をいただきました。循環の一部としての肺を学ぶことが出来ました。この度、南京都病院では坪井先生をはじめ先生方には様々な症例を勉強させていただいており、とてもありがたい気持ちです。不慣れな部分や出来ていないこともたくさんありご迷惑をかけると思いますが、医療に携わるスタッフの方々と協力して、より良い医療を患者さんに提供していけるよう成長できればと思います。何卒よろしく願い申し上げます。



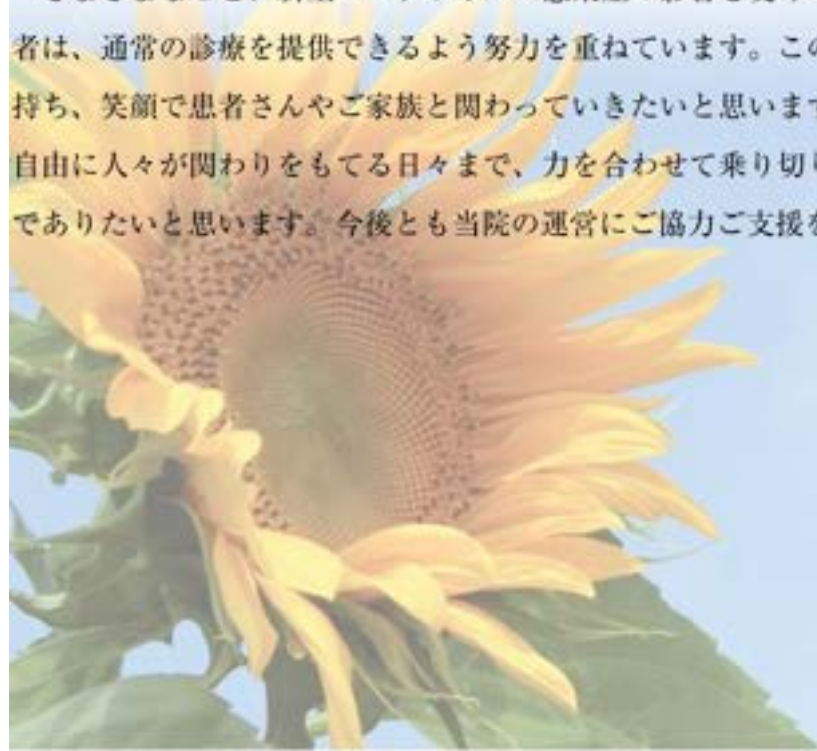
着任のご挨拶

看護部長 上南 雪野

下門前看護部長の後、看護部長を拝命いたしました上南と申します。

当院は、設立後 82 年間の長い歴史のなかで結核、重症心身障害、神経・筋疾患等のセーフティーネット医療を担い、その他非結核性呼吸器疾患、小児慢性疾患、長寿医療等の専門性を生かした高度医療の充実も図って参りました。当院の患者さんは、治療が終われば「生活する場所」へ戻る方がおられる一方、病院そのものが「生活の場所」である方も多くおられます。看護師は、診療の補助だけではなく、療養上の世話をするという重要な役割を担っています。私は看護師に、患者さんが最小限の苦痛で安心して生活できるよう、自ら考える看護を実践してほしいと考えています。人に関心を寄せながら、観察して変化に気づき判断すること、呼吸、姿勢、食事、排泄等の日常生活に対するアプローチを多方面から考え個別性のあるケアを実践することが必要です。また、リスクは予見して回避しながら、心身の機能を維持、改善し、生命力を強めていく関わりも重要です。これらは、院長先生をはじめ診療部、コメディカル、事務部が意見を交換しながら取り組むという当院の強みを活かすチーム医療のなかで実践できます。看護の専門性を発揮できる認定看護師、特定行為看護師、呼吸療法認定士、難病看護師やジェネラリストそして看護管理者すべての看護師が自らの能力を向上できるよう支援し、新たな人材育成にも力をいれていきたいと考えています。看護師が、患者さんを第1に考え大切にできるように、看護部メンバーひとり一人を大切に支援したいと考えております。

さまざまなことに新型コロナウイルス感染症の影響を受けている今日この頃ですが、当院に従事する者は、通常の診療を提供できるよう努力を重ねています。このようなきだからこそ、気持ちに余裕を持ち、笑顔で患者さんやご家族と関わっていききたいと思えます。いずれ戻ってくる、これまでのように自由に関わりをもてる日々まで、力を合わせて乗り切り、地域の方々に信頼される国立病院機構でありたいと思えます。今後とも当院の運営にご協力ご支援を賜りますようお願いいたします。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

整形外科を中心に身近なすり箱のようなかかりつけ医を目指しています

医療法人社団 石鎚会 三山木中央クリニック

整形外科

院長 林 太志 先生



当院は2013年11月に、石鎚会が運営するサービス付き高齢者専用賃貸住宅とともに開設されました。建物は三階建てでクリニックが一階、住宅部分は二階、三階になります。近鉄三山木駅、JR三山木駅からも至近距離にあります。入居される方の様々な相談に乗ったり、お薬を処方したりと整形外科の枠を取り払って診療を行っています。

私自身、三山木の出身でもあり、この地区が大きく様変わりするのをつぶさに見て参りました。交通の利便性もあり人口が増え続ける地域で、近くにお住いの子供からお年寄りまで様々な年代の方々の多様なニーズに対応しています。診療所だけでは十分にできない検査や患者様の病状の相談も京都田辺中央病院と密接に連携して迅速に対応し、この地での地域医療に貢献をしています。例えば整形外科としてはありふれた主訴の腰痛に対しても、その奥にあるかもしれない血液疾患や内臓疾患などの存在を常に念頭に置きながら診療を行っています。今後は京都府南部の各病院の先生方ともさらに緊密なネットワークを構築し、これまで以上の充実した診療を目指して参りたいと願っております。

■ 京田辺市三山木中央三丁目3番地5
■ TEL 0774-63-8001
FAX 0774-63-8002

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	/
午後17:00~20:00	●	●	●	/	●	/	/

■ 受付開始：午前診療 8:30~
午後診療 16:30~



大切な方の輝く笑顔が増えるように支援します

訪問看護ステーション かがやき

訪問看護



こんにちは。初めまして。

宇治市半白というところで訪問看護ステーションを始めました。訪問看護「かがやき」の所長をしております南山です。

私が訪問看護をやっていきたく考えたのは、私自身がもっと年を重ねて動きにくくなった時に、それでも住み慣れた自宅で、最期まで生活していきたいだろうと考えたからです。今後の自分のことはわかりません。今はまだ元気で働いていますが、いつまでもこのままの健康な状態が続く保証はありません。子育ては一段落しましたが、皆、独立すれば将来は一人暮らしでしょう。又、夫も介護をしないといけなくなれば、誰かの助けがあれば生きる力となります。そういった、誰もが最後まで望むであろう生きる権利を、安全・安心の健康面から、出来る限り御本人の意向に添って支えていければ、こんなにやりがいのある仕事はないと思います。

今はまだ、3人と小規模ですが、志を同じくした仲間と日々訪問看護に励んでいます。利用者の方々の笑顔が私達の心の支えになります。

今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

■ 宇治市宇治半白73-31
■ TEL 0774-34-1533
■ FAX 0774-34-1589

■ 営業日：月曜日～土曜日（祝日含む）
※24時間365日対応可能

■ 訪問エリア

- ・宇治市全域
- ・城陽市
- ・京都市伏見区（向島）

※上記以外の地域はご相談ください。



西病棟4階 病棟紹介

看護師長 若林 有佳

暑中お見舞い申し上げます。新型コロナウイルスの世界的な大流行により、不安な毎日を過ごされていることと思います。その一方では、東京オリンピックの開催が目前となり、世界の金メダルを目指すトップアスリートたちの応援をとっても楽しみにしています。

当病棟は、呼吸器内科、脳神経内科、小児科の慢性期の患者さんが入院されています。呼吸器内科の患者さんは、慢性呼吸不全等で酸素療法を行い NPPV（非侵襲的陽圧喚起）・CPAP（持続陽圧呼吸療法）等を使用されている人もいます。慢性呼吸器疾患認定看護師や呼吸療法認定士を中心に看護師全員で、在宅でも継続して酸素療法や呼吸器の管理ができるように支援しています。HOT（在宅酸素療法）外来も担っており、退院後の生活の様子や機器の管理ができているか、入院から退院後まで継続看護を実践しています。「ながいき体操（音楽に合わせて息を整える体操）」は毎日実施しています。医師をはじめ理学療法士や栄養士等の多職種とチームで取り組めるよう呼吸ケアリハビリテーションカンファレンスは毎週行っています。



患者さんへHOTについて
指導している様子



呼吸ケアリハビリテーションカンファレンスの様子

また、脳神経内科の看護は、病棟内に日本難病看護学会認定難病看護師がおり、患者さんとのコミュニケーションの方法や直接的ケアの指導を受けながら取り組み、レスパイト入院の患者さんの受け入れも行っています。

小児科の患児さんは、当院に隣接する京都府立城陽支援学校 病弱教育部で教育を受けながら、療養しています。保護者と離れて暮らす子どもたちを、医師・看護師・臨床心理士と連携を図りながらケアしています。

今後は、新型コロナウイルス感染症の収束を願い、スタッフが何よりも患者さんのことを一番に考え、患者さんが安心して入院・退院後の生活を営めるように、医療チームで力を発揮できるように看護師長として関わっていきたいと思います。

院外CT・MRI検査実施時間変更のお知らせ

国立病院機構南京都病院 病院長 坪井 知正

2020年11月13日

検査で至急の対応が必要となる急性期疾患が疑われた場合に十分な対応を行うことができませんので、国立病院機構南京都病院では、2020年11月16日より、平日17時15分から19時、土曜日9時から12時の院外からの頭部、胸部および腹部CT・MRI検査の実施を中止致します。従いまして、頭部・胸部・腹部のCT・MRI検査実施は平日9時から17時15分のみとなります。

なお、頭部・胸部・腹部を除く脊椎などの他部位のCT・MRI検査は、これまで通り平日9時から19時と土曜日9時から12時まで実施しております。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

南京都病院画像カンファレンスWEB開催について

南京都病院では、地域の先生方と顔の見える連携を深める為、南京都病院画像カンファレンスを行っております。

今回の新型コロナウイルス蔓延に伴い延期となっておりましたが、初の試みでWEBを使い2月より画像カンファレンスを再開致しました。



開催予定 (WEB)

6/3開催済	NPPV最近の話題	角 謙介	日医生涯教育講座カリキュラムコード73	1単位
8/5開催	パーキンソン病の概説	丸濱 伸一朗	日医生涯教育講座カリキュラムコード19	1単位
9/2開催	当院における在宅療養児(者)支援について	徳永 修	日医生涯教育講座カリキュラムコード80	1単位
10/7開催	肺の外科手術について	大塩 麻友美	日医生涯教育講座カリキュラムコード42	1単位

※詳しくは、当院ホームページの**新着情報**をご確認ください。

各、開催毎に①氏名②職名③医療機関名④連絡先電話番号⑤受講証の有無⑥メールアドレス

(WEB開催案内メール送信用)を下記アドレスまで送って頂き

(asano.shintaro.qm@mail.hosp.go.jp) 担当:浅野(あさの)まで

参加申し込み頂きましたアドレスにWebex配信に関するご案内を送らせていただきます。

交通のご案内



- 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
- JR学研都市線 京田辺から
- JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*...各駅より
送迎車あり

診療科のご案内

- 内科
- 脳神経内科
- 呼吸器内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 小児科
- 外科
- 整形外科
- 呼吸器外科
- 皮膚科 (A060A)
- リハビリテーション科
- 放射線科
- 心療内科 (A060A)
- 歯科 (A060A)



独立行政法人国立病院機構

南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中戸原11番地

TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765

時間外緊急時 0774-52-0642

URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療
連携室

電話受付時間のご案内について

平成30年12月1日から、申し込み受付を18時まで延長させて頂きます。

電話受付時間

8:30～18:00 月～金(土・日・祝日休み)

TEL:0774-52-0191(直通)

0774-52-0065(代表)

FAX:0774-55-0270

手続状況を確認し、その場で受付日時をお返事いたします。

なお、お時間を要する場合は取り返しお返事させていただきますので、ご了承ください。

E-mail: 407-kenkei@mail.hosp.go.jp